

310号

2021年
1月

日赤みやぎ

特集：東日本大震災から10年 赤十字はこれからも皆様と共に！



▲海外たすけあいキャンペーン（令和2年12月）：青少年赤十字加盟校のミッキー保育園北仙台園の園児がNHK仙台放送局で元気よく開始宣言。この募金は紛争や災害、病気で苦しんでいる人のために使われます

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。県民のみなさまには、日頃より赤十字に対しご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

まもなく東日本大震災から10年を迎えますが、日本赤十字社宮城県支部は、国内外の皆様からのご協力により、発災直後から医療救護、ボランティア、こころのケアをはじめ、インフラの整備など幅広く、息の長い復興支援活動を続けております。

昨今では、地震や大雨など激甚化する自然災害への救護活動に加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、医療提供体制の更なる強化が求められており、赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療に取り組むほか、赤十字奉仕団員と共に感染拡大防止活動やウイルスがもたらす不安や差別を断ち切るための普及啓発活動を行っております。

赤十字は、これからも人間のいのちと健康、尊厳を守る取り組みを継続してまいりますので、今後ともお力添えくださいますようお願いいたします。



日本赤十字社宮城県支部
支部長 村井 嘉浩

東日本大震災から10年 赤十字はこれからも皆様と共に！

発災直後の災害救護活動

組織の力を活かした復興支援

全世界からの支援への感謝と震災の記憶を令和につなぐ

震災から10年。
被災地の赤十字として「わたしたちは忘れない。」
失われた生活を。さまざまな思いを抱えて生きている人々を。
災害と向き合う勇気をくれた、
日本、世界からのあたたかい支援への感謝の気持ちを。
未来へ繋ごう。防災・減災の大切さを。



東日本大震災
宮城での災害救護活動はこちら！



東日本大震災義援金

東日本大震災義援金の宮城県への送金状況
187,789,376,098円（令和2年9月18日現在）
東日本大震災義援金には大変多くの皆さまからご協力をいただいております。
温かいご協力で深く感謝申し上げます。
受付は令和3年3月31日まで行っています。
引き続きご協力をお願いいたします。

義援金とは？

被災された方々へ、お悔やみや応援の気持ちを込めて贈るお金。



STEP 1 寄付者
STEP 2 義援金受付団体（日本赤十字会）
STEP 3 義援金受付委員会（日本赤十字会）
STEP 4 市町村交付
STEP 5 被災された方々

◆被災された方々へ公平に金銭で支援◆

被災された方に届くまで	被災された方々へ公平に金銭で支援
被災された方に届くまで	被災された方々へ公平に金銭で支援
被災された方に届くまで	被災された方々へ公平に金銭で支援
被災された方に届くまで	被災された方々へ公平に金銭で支援
被災された方に届くまで	被災された方々へ公平に金銭で支援

世界100か国を越える国からのご協力にありがとう

世界100か国以上の国と地域からの財政支援は、宮城県内でさまざまな復興支援に役立てることができました。

【赤十字 こところからのホットケア】

応急仮設住宅での地域コミュニティ構築を支援し、ストレスの緩和や孤独死を予防するため、有資格者によるマッサージやホットケア、健康相談を受けていただきながら被災された皆さんの悩みや不安などを傾聴するところのケアを行いました。

この活動は、平成23年6月から平成28年12月まで石巻市、女川町の避難所や多賀城市の仮設住宅で実施していました。赤十字のボランティアや宮城県臨床心理士会が活動しました。

また、地域赤十字奉仕団は、被害の甚大な地域に出向き、炊き出しで郷土料理をふるまったり、蒸し暑い季節には苦しい避難所生活を送る皆さんにかき氷やアイスクリームを配ったりするなど、奉仕団員の細かな心配りと笑顔を被災地にお届けしました。



【被災地のこどもを対象にしたわんぱく・元気スクール】

平成24年～29年には、震災で被災して不安を抱えている子どもたちが元気を取り戻せるよう、自然の中で仲間と過ごす宿泊体験「わんぱく・元気スクール」を栗原市にある国立花山青少年自然の家で開催しました。

県内の仮設住宅等に住む小学校4～6年生が参加し、自然の中で仲間と協力してミッションをクリアする「冒険ゲーム」や夜の自然を楽しむ「ナイトハイク」などを体験しました。参加した児童から「新しい友だちができて嬉しかった！」との声が挙がりました。



【地域での講習普及活動】

東日本大震災以降、仮設住宅をはじめ地域コミュニティや組織内で互いに助け合う精神・技術の向上や健康の維持増進のために、県内の自治会、教育機関、企業等で赤十字短期講習を無料（開催経費及び教材費）で行いました。

平成30年3月末までの期間に、短期講習を計2,059回開催し、延べ67,381名の多くの方々が受講しました。また、財政支援が終了した同年4月以降も当支部財源により無料で行っています。（令和3年3月末まで）

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止していましたが、令和2年7月から感染対策に配慮しながら講習を再開しました。



日赤みやぎ 震災10年プロジェクト

赤十字を通じて支援した人と支援を受けた人の心をつなぐ

Pick up!
「赤十字防災ボランティア 大友 明夫」さん
震災当時から2か月間にわたって赤十字防災ボランティアとして尽力。全国から集まったボランティアの統率や一般のボランティアのケガ防止、応急手当にあたりました。

★支援者・被災者の震災後を追うインタビュー★
赤十字を通じて支援した人・支援を受けた人に震災当時やその後の10年間のお話を聞き、インタビュー記事を作成します。
インタビューを受けていただく7名は、令和3年3月5日から11日にかけて河北新報に掲載されますので、ぜひご覧ください！

未来を担う10代・20代へ震災の記憶をつなぐ

語り部さんの話を聞いて、自分が何を大切にしたいか気づき、考え、実行することになります。JRCメンバーには気づきを書きこめる「Actionカード」を配布、ユースメンバーには被災や支援をテーマにしたワークショップを実施します。

赤十字メンバーへ語り部活動のオンライン「生」配信

被災地石巻市で伝承活動を行っている3.11みらいサポートと協働して、語り部さんの生の声を全国のJRCメンバー（14,000校）と赤十字ユースメンバー（7,000名＋世界のユース）にオンラインで届けます。
令和3年1月～3月にかけて計30回程度配信予定です！



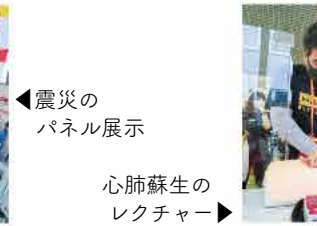
令和2年10月3日（土）のNEWS！

名取市民体育館で3.11忘れないキックオフゲームを開催！来場した皆さまに「忘れないロゴバッジ」を配布しました。特設ブースでは、東日本大震災のパネルや救援物資展示、コロナ禍に対応した一次救命処置コーナーを設け、防災・減災と命を守る取り組みをご体感いただきました。

一次救命処置体験者からは「教わったことはあるけれど、いざというときに備えてまた確認することができて安心しました。」との声が挙がりました。

防災・減災といのちを守る取り組みを家族へつなぐ

仙台89ERS HOOP との共催事業
地域と未来を「つなぐ」をコンセプトとして県内各地で試合を展開する仙台89ERSと日赤宮城県支部がタグを組み、防災・減災の大切さといのちを守る取り組みを日赤のブースを設けて伝えていきます。



日赤宮城県支部では、被災地に寄せられた多くのご協力への「感謝」の気持ちを込めて、防災・減災の取り組みを普及するプロジェクトを実施していきます。

日本赤十字社宮城県支部 事務局次長兼総務課長 菅原 清悦

災害医療講演会で石巻へ向かう直前にあの地震が発生し、その時から始まった私達の災害救護活動は、復興支援活動も含め10年を迎えようとしています。未曾有の被害に「全ては被災者のために」を合言葉に全社を挙げて取り組み、世界中からの多くの支援も活用して生活再建、医療、福祉、教育、原子力災害対応、災害対応能力強化等の分野で様々な支援を実施して参りました。「人間を救うのは人間だ」というスローガンを「絆」という言葉と併せ再確認しました。

「余りにも多くの犠牲と引き換えに得た貴重な経験を決して無駄にせず伝えて行く。」被災者の皆様にはお悔やみとお見舞い、加えてこれまでの努力に対し敬意とねぎらいを申し上げます。また、ご支援下さった多くの皆様に心より感謝を申し上げます。



公益社団法人3.11みらいサポート 藤間 千尋 理事 震災を学ぶことは未来の命を守ることに。

震災の時は横浜で仕事をしていました。石巻にボランティアで通うなか、現在勤めている団体に声をかけられ、「出来ることがあれば」と石巻に移住。語り部プログラムを担当することになりました。

今年度は、コロナ禍でプログラムを開催する機会は激減しましたが、日赤と全国の小中高生へオンラインによる語り部事業に取り組めることとなり、本当に嬉しく思います。子ども達には「もし自分だったら」と想像し、学んだことを家族や大切な人達に伝えて欲しいです。

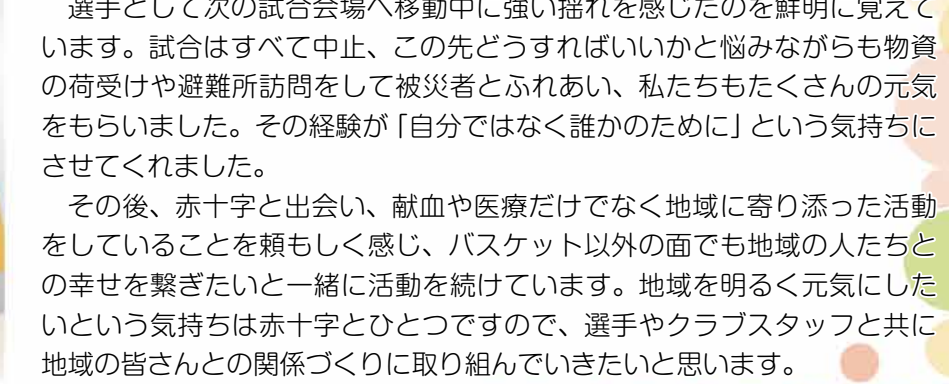
震災を学ぶことは「重くて、悲しい」ことではなく「未来の命が守られる社会」への一歩だと思います。いつか被災したとき「物は失ったけど、みんな生きてる」と言い合える世界を想像しながら活動しています。



仙台89ERS 志村 雄彦 社長 「誰かのために」という気持ちが強くなった。

選手として次の試合会場へ移動中に強い揺れを感じたのを鮮明に覚えていました。試合はすべて中止、この先どうすればいいかと悩みながらも物資の荷受けや避難所訪問をして被災者とふれあい、私たちもたくさんの元気をもらいました。その経験が「自分ではなく誰かのために」という気持ちにさせてくれました。

その後、赤十字と出会い、献血や医療だけでなく地域に寄り添った活動をしていることを頼もしく感じ、バスケット以外の面でも地域の人たちとの幸せを繋ぎたいと一緒に活動が続いています。地域を明るく元気にしたいという気持ちは赤十字とひとつです。選手やクラブスタッフと共に地域の皆さんとの関係づくりに取り組んでいきたいと思っています。





宮城県支部のトピックス

【赤十字防災ボランティア牧野純子さんが防災担当大臣表彰を受賞！】



▲表彰状を受け取った牧野純子さん。（前列中央）

10月15日（木）、内閣府の防災功労者防災担当大臣表彰を受賞した牧野純子さんの表彰伝達式を支部で行いました。

本表彰は、災害時の防災活動や防災思想の普及に顕著な功績を挙げた方などを内閣府が表彰するものです。

牧野さんは、東日本大震災を機に赤十字防災ボランティアに携わり、昨年の台風19号災害時にはリーダーとして尽力したほか、研修会での炊き出し指導や6年以上にわたる本紙非常食レシピの連載を通じて、防災意識向上に貢献してきました。

受賞後のご挨拶では、「赤十字防災ボランティア全員の代表として受賞したと感じています。災害のとき避難所では炊き出しを、在宅避難では家族向けの非常食レシピを応用して、皆さまに体と心の健康を保ってほしいです。」と話されました。

【台風19号の被災地域で支援イベントを行いました！】

11月3日（火）、令和元年東日本台風（台風19号）災害で浸水被害のあった大郷町土手崎地区の収穫祭で被災者支援活動を行いました。

大郷町での同イベントは2月に続き2回目。今回は、日本災害看護学会や宮城県臨床心理士会の方々と協力し、健康相談や血圧測定、傾聴活動を実施しました。

秋晴れの中、老若男女を問わず50名を超える地域の方が参加し、ペタンク大会やビンゴ大会で盛り上がりました。

参加者のお話を聴いたり、血圧測定を行ったりしました▶

日本赤十字社宮城県支部は、今後も被災地域の交流を深め、災害からの復旧・復興に協力していきます。



【津波防災の日JRC中学生が段ボールベッド組み立てを体験！】



▲段ボールベッドの組み立てに挑戦！

「津波防災の日」の11月5日（水）、青少年赤十字加盟校の仙台市立高砂中学校で避難訓練と防災学習が行われ、避難所設営訓練の一環として支部職員が段ボールベッドの組み立て方をレクチャーしました。

高砂中学校は、東日本大震災の津波によって校舎が一部浸水する被害を受けた経験があり、防災教育に力を注いでいる学校です。生徒のみなさんは今後の災害を想定しながら段ボールベッドの特性を学び、「組み立てはとっても簡単なのに、乗っても壊れなくてびっくりしました。」「お年寄りや小さい子どものために素早く作ってあげたいです。」といった感想を述べました。



宮城県内施設のトピックス

仙台赤十字病院

【新型コロナウイルス感染症患者受入訓練～対応と課題の検証～】



9月26日（土）、新型コロナウイルス患者の受け入れ拡大に備えてシミュレーション訓練を実施しました。感染者が激増したまん延期において、入院患者の受入れや疑い患者が直接来院する事態を想定し、職員約60名が受付から入院まで一連の手順を確かめ、必要な対応と課題を検証しました。

当院は、院内感染を防ぎつつ患者受入れの使命を果たすことができるよう、訓練の反省を生かし、体制を整えてまいります。

◀防護服を着用し、感染者への対応を訓練する医師と看護師

石巻赤十字病院

【災害保健医療対応訓練を実施！】

10月10日（土）、コロナ禍での大規模災害発生に備え、石巻・登米・気仙沼二次医療圏合同での災害保健医療対応訓練を実施しました。



▲避難者役の学生にコロナ感染症状や渡航歴はないか、また必要な物資はないかなど聞き取りをする救護班員。

今回は、石巻・登米・気仙沼の各保健所をはじめ、各市町村の保健師や当院の救護班、石巻薬剤師会など約230名が参加。県内で新型コロナウイルス感染患者が多数発生している中で大規模地震が発生、各市町村で避難所が開設されることを想定しました。石巻赤十字看護専門学校の各教室を避難所に見立て、保健師や救護班による避難所のアセスメント（調査）の実施、避難所ごとの避難者数や医療ニーズの把握、新型コロナウイルス感染疑い患者のスクリーニングなどを行いました。また、各保健所に設置された保健医療調整本部と各市町村との情報共有体制をweb会議で初めて検証しました。

宮城県赤十字血液センター

【(株)松浦組様から献血者のために花火を寄贈いただきました！】

7月、株式会社松浦組様より「手持ち花火」300セットを寄贈いただきました。松浦社長からは、「花火職人の友人が各種イベント等の相次ぐ中止の影響で困っていたので、その友人から購入しました。また献血者減少の報道を見ていたので、献血者確保の一助になればと思っています。」と温かい言葉をいただきました。8月に献血をしていただいた方へ感謝の記念品としてお渡ししました。この花火には献血者確保とその家族にとって少しでも夏の思い出になればという社長の想いが込められています。



▲花火を手渡す松浦社長（写真右）と血液センター所長



新型コロナウイルスへの不安や差別に対応するガイド 地域で活用いただいています！

* 研修会等で感染予防のお話 *

青少年赤十字賛助奉仕団員の上遠野健さんが石巻地区の住民から依頼を受け、地域での研修会で講演を行いました。



青少年の育成や防災教育の話に加えて、新型コロナウイルス感染症ガイド(冊子)を配付して感染症との向き合い方を伝えました。

研修会等でガイド(冊子)を受け取った地域の方の声



パソコンやYoutubeを見ることができないので、赤十字奉仕団を通じて冊子をいただけてありがたい。

とっても分かりやすい資料で、家でもまた読みます。



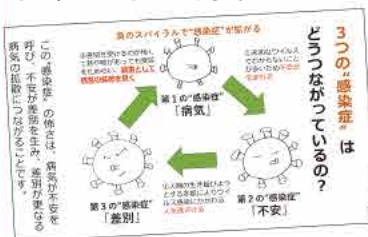
* JRC 加盟校の授業でも！ *



JRC 加盟校の宮城県築館高等学校で避難訓練と防災教育授業があり、支部職員が津波や地震への備えについて話しました。最後に新型コロナウイルスの病気・不安・差別の3つの顔に関する話をし、参加した生徒約300名にガイドを配付。学校や家庭での感染予防を呼びかけました。

▼「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！ ～負のスパイラルを断ち切るために～」

病気・不安・差別の負のスパイラルを断ち切るために、私たちができることをガイドにしました。詳しくはこちらです。



お役立ち情報 非常食かんたんレシピ



* アネちゃんの * かんたんごはん帳 Vol.20 オニオングラタンスープ風



宮城県民熱愛の油麩をバゲットのかわりにして、袋を使って作るオニオングラタンスープ風。コクがあって、もちりとした食感の油麩のおかげで満足感のある一皿ができます。使う袋は、ハイゼックス個包食袋や加熱OKのポリ袋。熱には強い素材ですが鍋底に密着すると破損する場合があるので、ザルを入れる等して気を付けましょう。もしあれば、パスタポットを使うと楽チンです。野菜は60度ぐらいが甘くおいしくなるので、その温度が長く続くように水から加熱するのがオススメ。もし沸騰したお湯が準備できていれば、お湯から入れてもOKです。油麩のおかげでそのままでも十分に風味よくできますが、チーズを乗せて焼くと、よりオニオングラタンスープらしくなります。

アネ(牧野純子)
イラストレーター・FCAJ 認定フードコーディネーター
仙台市在住
赤十字救急法救急員 赤十字防災ボランティアリーダー
出版社、CM 制作会社を経てフリーランスに。著書に「アネちゃんのごはんいっぱい幸せ」(主婦と生活社)、「夜にちょこっとココットごはん」(朝日新聞出版)がある。

* 材料 (1人分)

玉ねぎ(細切り)…1/2個分
カップスープの素(オニオンコンソメ)…1袋
水…150ml ※カップスープの指定量に従う
油麩(厚さ1cmに切る)…3枚
ビザ用チーズ…適量 ※あれば好みで

* 作り方

1. 袋に玉ねぎ、カップスープの素、水、油麩を入れる。
2. 袋の空気を抜き、できるだけ袋の上の方をゴムバンドでしっかり止める。
3. 鍋にたっぷりの水と2を入れ、沸騰してから20～30分加熱する。
4. 器に盛り付ける。※写真手前
5. 好みでビザ用チーズを乗せ、オーブンorオーブントースターで焼き色がつくまで5分ほど焼く。※写真奥

※チーズを乗せて加熱する場合は、耐熱容器を使ってください

